

第3表 幾つかの国の地熱発電能力 (何越教ほか編著<中国的矿产資源>1987)

国名	1980年の地熱発電能力		西暦2000年の予想地熱発電能力	
	×10 ¹² ワット	対世界比 (%)	×10 ¹² ワット	対世界比 (%)
アメリカ	923	38	5,582	33
イタリア	440	18	800	5
フィリピン	446	18	1,225	7
ニューージーランド	202	8	382	2
日本	168	7	3,668	21
エルサルバドル	95	4	535	3
メキシコ	150	6	4,000	23
アイスランド	32	1	68	0
ソ連	5.5	0	310	1
トルコ	0.25	0	150	1
インドネシア	0	0	92	0
その他	0	0	590	4
世界合計	2,462	100	17,644	100

き出し、数10分後には地面に直径数10m²の大穴を残したことがある。そして、地下200mの部分で最高温度の170℃に達し、この地熱田全体として発電能力が8万kWと算定され、現在すでに小規模な実験発電所が稼働し、草原の牧畜に従事する人々に給電されている。

西南地方の辺境である雲南省騰冲地区も、非常に有望な地熱区である。この地熱区は火山活動と密接な関係があり、多くの間欠泉・沸騰泉、さらに溢流する熱水が作った熱水河・熱水湖・熱水池がある。その一つの深度10mの熱泉孔中の泉温は135℃、これを2m掘進すると、泉温が145℃に上がったという。チベット—雲南地熱帯の範囲は広大で、人口が非常に少なく、工業の基盤が弱く、地熱資源の全貌はまだハッキリせず、地熱の利用は今からである。しかし、このチベット—雲南地熱帯は中国での地熱資源の潜在力としては最大の地帯とされている。

中国第三の地熱帯は、西北地方にある。その地熱資源は主として比較的低温の地下熱水からなり、阿爾泰山脈、天山山脈、准噶爾盆地、塔里木盆地、酒泉盆地に分散分布し、規模は大きくないが、付近の都市・町村にとっては或る程度の開発・利用の価値がある。

中国と地質部門の推算によると、中国の総地熱資源量は2,000億tの標準石炭の発熱量に相当する。地熱資源は潜在力がきわめて大きいエネルギー資源であるが、計画が順調に実現するとしてもその日は遠く、ここ当分の間の地熱開発・利用の重点は東部の地熱帯が主体で、都市・町村の暖房、医療、工業、観光事業などに用いられることになるだろう。(つづく)

KISHIMOTO Fumio(1980): Mineral resources of People's Republic of China (2).

<受付: 1989年12月22日>

最近中国で発見された新鉱床

岸本文男

広東省河源市で超大型珪石鉱床の発見

標記の新発見鉱床は、延長が3km、厚さが最大で56m、山の斜面に沿って地表に露出し、開発はすこぶる便利である。鉱石のSiO₂含有率は最高98.63%、探査鉱量はざっと2億tと算定され、比較的大きな稼行価値を持っている。何徳慶(中国地質報 1989.1.27)

陝西県が重要黒鉛生産基地化

黒鉛の地質鉱量が2億tの山東省萊西県は、すでに中

国最大の黒鉛生産基地になっている。

現在、萊西県内に大規模黒鉛採掘加工企業が2社、中規模黒鉛採掘加工企業が10社操業中であり、同時にこれらの大規模・中規模黒鉛企業に固定炭素含有率40-50%の半製品を提供する小型鉱山が50ヵ所以上存在し、県全体の黒鉛産出量は年間100万t、精鉱と加工黒鉛の生産量は4万tに達し、生産額は1億元に近い。黒鉛製品の種類は10種、その規格は100種類ほどになっている。

魯山(中国地質報 1989.3.24)